

Library News



大山崎中学校図書館

令和5年10月

特製しおりプレゼント中!

令和5年度も10月を迎え、半年が過ぎました。この半年の間に何度図書室を訪れたでしょうか?この頃のお昼休みの図書室は結構にぎわっています。貸出し返却だけでなく、友だちとミッケをしたり、おしゃべりをしに来たりする人たちもたくさんいます。そんな中で「こんな本もあるんや」という声もよく耳にします。いろんな書棚を眺めてみてください。人生を変えるような一冊に巡りあわないとも限りません。また図書室では4月から50冊以上借りた人に特製しおりをプレゼントしています。現在まだ3名ですが、あと半年あります。ぜひチャレンジしてください。自分が何冊借りているか知りたい人はカウンターで聞くことができますよ。



新しい本が続々入荷!

9月に入って新しい本がたくさん届いています。人気作家の新作小説や続編、5分後、3分間などの超短編シリーズの新作、といった小説分野だけでなく、クイズ本、仕事や進路のガイド本、城作りや自給自足生活、水中考古学といったマニアックな分野の本まで様々です。カウンターの横にコーナーを設けていますので見に来てください。



新着本

『この夏の星をみる』辻村 深月 VS 『わたしたちの世代は』瀬尾 まいこ



『かがみの孤城』の作者辻村深月さんと『そして、バトンは渡された』の作者瀬尾まいこさんの新刊がこの夏相次いで出版されました。共に新型コロナの影響を受けた人たちを題材にしています。2020年、天体観測でつながる高校生たちの青春を描く『この夏の星をみる』は読者をぐいぐいとあの夏へ引っ張っていく力強さがあります。対して『私たちの世代は』はコロナをきっかけに不登校になった心晴とコロナが明けていじめにあうようになった芽が大人になって就活で出会いそれぞれの生き方を見つけるまでをていねいに描いています。どちらも心が震えるようなおすすめの小説です。あなたの好みはどちらでしょうか？



『ゴリラ裁判の日』須藤 古都離

アフリカのジャングルで育ったゴリラのローズは母とともに近くのゴリラ研究所の研究者から手話を教えられ、人間と意思疎通ができるようになります。やがてアメリカに渡ったローズは熱狂的な歓迎を受け、動物園でゴリラの群れと幸せに暮らし始めますが、一発の銃弾がローズの幸せを打ち砕きます。人間と会話できるローズは自らの権利を行使するべく前代未聞の裁判を起こし……。人間とは何か？をゴリラで描く驚くべき小説です。



『チャンス はてしない戦争をのがれて』ユリ・シュルヴィッツ

『よあけ』という字の無い絵本を読んだことはありますか？本書は絵本作家のユリ・シュルヴィッツの自伝です。ユダヤ人でポーランドに住んでいたユリー家がナチスドイツから逃れてソ連内を転々として何とか生きのびていく数年間を描かれています。絵本作家だけあって挿絵が多く、ユーモアたっぷりの語り口にもひきこまれます。生と死をわけるほんの少しの違いはチャンス（偶然）。まるでフィクションを読んでいるような面白さがあります。



司書のひとりごと 昨日の本棚から 『八月の御所グラウンド』万城目 学

万城目学の新作、出た～！京都やん！私の心臓は跳ね上がりました！『ホルモー六景』から16年。またあの京都×青春小説が読めるのかとワクワク。酷暑の8月早朝、京都御所内のグラウンドで卒業がかかった草野球のリーグ戦に挑む大学生。メンバーがどうしても一人足りず、通りすがりの青年に野球をしませんかと声をかけると、意外にもすんなりとOKをもらえて……というお話です。物語はこの青年の正体を探る方向へと進みますが、そこにファンタジーがあり、せつなさがあり、8月に野球をやるということの意味へとつながっていくのです。じーんとくる読後感でした。そういや私も何十年も前に御所グラウンドでソフトボールやりました。あの時の先輩たち元気かなあ。

